

上で神戸は立ち返る原点ではないのだろうかと改めて感じました。

しばらく散歩をしながら神戸駅へ向かい、電車によって明石駅へ向かいました。社会科の地理で勉強する日本標準時子午線はこの地を通過しています。またここでも軽食をとり、明石市立天文科学館へ向かうことにしました。明石駅からは15分ぐらい歩いたのでしょうか。施設へ向かうに従って、ワクワクと胸が躍ってきたのを実感しました。そしてゲートに到着し、入り口へ向かうと東経135度の通過標識と出会いました。何ともいえない感覚を覚えました。しばしの観覧の後、東経135度子午線の標識を求めて瀬戸内海に面した中崎公園まで足を運んでみました。いくつかの標識を写真に収め、海岸で一人座りながら、「時」の概念について思索をめぐらせてしまいました。哲学的にも「時」という概念は非常に難しいですね。大学入試の現代文でもしばしば「時」についての文章が出題されますが、なかなか歯ごたえのある文章です。

昼食の時刻となり、明石駅にて明石焼を食してみました。現地ではたこ焼きを呼んでいるようです。しかし、全国的にはたこ焼きは大阪のソースべつとりのものを思い浮かべるかと思いますが、それと明石焼は大いに異なります。どこもない素朴な食感と味が明石の人を象徴するかのようでした。瀬戸内海の穏やかな海と同じように明石の人たちも穏やかに、「時」と共存をしているのかなと感慨深くなりました。

いろいろグダグダと思いつくまま書いてはみました。神戸・明石の旅の写真は小春学院の玄関口に掲示しておりますので、足をお運びの際にはぜひご覧ください。

今月号もなんとか脱稿できそうです。来月は新年を迎えます。また新たに執筆をしていこうと心を決めました。

文責：めがね先生

★☆☆☆★☆☆☆★☆☆☆★12月のおめでとう★☆☆☆★☆☆☆★☆☆☆★

1年1年の成長を自分は分からなくても人は見えています。お誕生日おめでとうございます。

☆友泰くん ☆舞さん ☆七海さん ☆菜摘さん ☆佳澄さん ☆和矢くん

お誕生日は子育てをしてくださるお父さん、お母さんへの感謝の日でもあります。お子さんの成長を喜ぶとともに、感謝申し上げます。

★★12月の予定★★

①小学生学カテストを実施します

今月は18日(日)～21日(水)の期間中で学カテストの受験をお願いいたします。試験範囲は別紙「小学生12月号・2月号学カテストのご案内」をご確認ください。事前課題プリントもありますので、十分に活用してテストに備えておきましょう。

②中学3年生北辰テスト・中学2年生北辰テスト

12月4日(日)は中学3年生の北辰テスト[第6回]・中学2年生の北辰テスト[第2回]の実施日です。十分に勉強してテストに臨みましょう。北辰テスト[第8回]は1月8日(日)です。受付は12月1日(木)～12日(月)です。ぜひテストを活用して、勉強の指針にしていきましょう。

③中学生学カテスト

今月の学カテスト受験最終日は12月21日(水)です。平常月と違いますのでご注意ください。
12月の学習内容の復習、事前課題プリントの確認をしっかりと行ってテストに挑戦しましょう。

④2学期の授業は12月21日(水)までとなります。

小春学院カレンダーの通り、2学期の授業は21日(水)までとなります。22日(木)～25日(土)は学期末調整休講日となりますのでご注意ください。

⑤12月26日(月)～1月5日(木)は「冬の教室」です

別紙にてご案内を致しますが、2学期の復習と3学期の予習を行う「冬の教室」を開催いたします。小春学院の通塾生は必修受講となります。ご案内をご覧の上、お申し込みをお願いいたします。

★★今月の「この一問!」★★

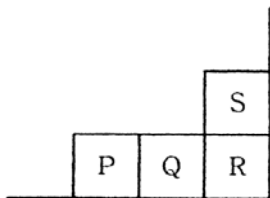
今月は算数の問題です。チャレンジしてみてください。答えは教室で!

地図上ア～コの場所にA、B、C、D、E、F、G、H、I、Jさんの家が1軒ずつあります。次のA～Gさんの言ったことを参考にしてCさんとHさんの言えが地図上ア～コのどの場所にあるか答えなさい。ただし、「となり」と「前」は次のように決めます。

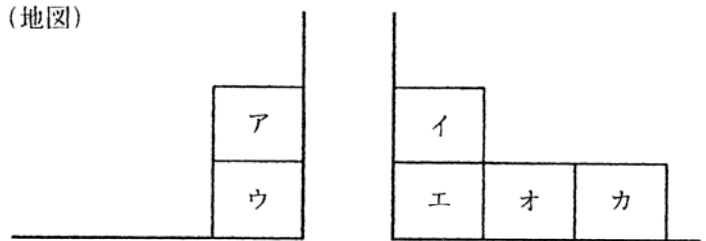
図1で、Qの「となり」とはPまたはRを指し、Rの「となり」とはQまたはSを指します。
図2で、Tの「前」とはUまたはWを指します。

- A: 私の家のとなりにGさんとJさんの家があります。
- B: 私の家の前には公園があります。
- C: 私はBさんのとなりの家に住んでいます。
- D: 私の家は角にあります。
- E: 私の家は角にあって、となりにBさんとIさんの家があります。
- F: 私の家のとなりは公園です。
- G: 私の家の前には家も公園もありません。

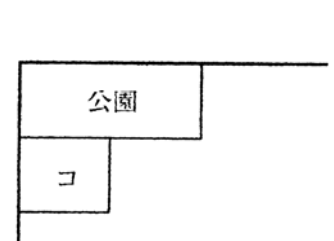
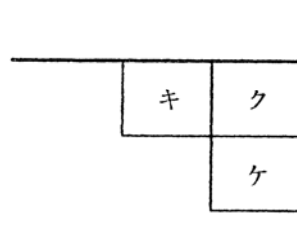
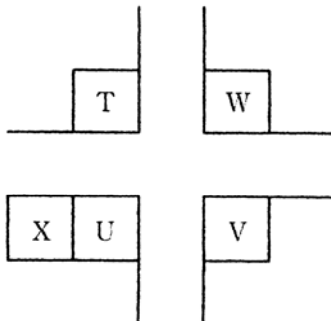
(図1)



(地図)



(図2)



★★大人のための「この一冊!」★★

近藤勝重「書くことが思いつかない人のための文章教室」(幻冬舎新書 232)

文章を書くのは得意ですか、苦手ですか?こんな質問をすると悩まれるかもしれません。最近、私も積極的に文章を書くようにしていますが、どうしても「書くことが見つからない」というときがあります。そんな悩みを持っていた矢先に新聞の広告欄で知ったのがこの一冊です。即注文して購入しました。

そういえば、文章を書くということを私たちはいつ学んだのでしょうか。いつから文章が書けるようになったのでしょうか。この本のはじめのところにこんな記述がありました。

『綴り方の授業』という言い方はあっても、その授業は『国語の授業』のほんの一環でしかなかった気がする。おそらく教育現場では文章は個人の才能で書くべきもので、科目として教えるようなものではない、と考えてきたのではないのでしょうか。

「文章は個人の才能で書くべきもの」というところにハッと気付かされるところがありませんか?実はこれこそ文章を書くことについての私たちの勝手な思い込みであり、学び方しだいではもっと文章を書くことへの苦手意識を克服できるのではないのでしょうか。

このことは子どもの作文指導でも言えるでしょう。「書くことがない」という子どもにどのように「書くこと」を引き出してあげるかが作文指導のポイントになってくるのですが、それがなかなか難しい。本書では「ほ～、そんな方法があったのか」という腑に落ちるガイダンスが書かれていて、自分も書いてみようかなと思わずひきつけられてしまいました。

冬休み、文章を書く機会がありましたら、ぜひ本書をご覧になってみてください。

【編集後記】

ちょっと難産の末に完成しました「IDOBATA 会議@koharu」はいかがでしたでしょうか。難産ということはそろそろフィナーレ?なんて言われてしまいそうですが、実は新しい企画が進行中。もしかすると、新春第1号はその企画か?予定は未定です。応援メッセージをお待ちしております。

ペンネーム

この応援メッセージをブログに掲載してもよろしいでしょうか? はい いいえ
ご協力ありがとうございました。